

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
経営協議会（平成23年度第2回）議事要旨

1. 日 時 平成23年9月14日（水）14：42～16：07
2. 場 所 奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
3. 出席者 磯貝議長
村井、新名、澤田、片岡、松本、北出の各学内委員
石井、井上、佐々木、志村、宮寫、CASSIM、矢嶋の各学外委員
欠席者 畚野学内委員
小出学外委員
出席監事 二宮監事
陪席者 堀江教育研究支援部長
奥田、吉田、桐山、大場、林田、成相、向井の各課長
4. 配付資料
資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（平成23年度第1回）議事要旨（案）
資料2－1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学財務貢献者報奨規程の制定について
資料2－2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学財務貢献者報奨規程（案）
参考資料 財務貢献者報奨規程の制定について
資料3－1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学基金規程の制定等について
資料3－2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学基金規程（案1）
資料3－3 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学委員会規程（新旧対照表）（案2）
参考資料 奈良先端科学技術大学院大学基金（奈良先端大基金）について
資料4 本学の主な動きについて（平成23年6月24日（金）～平成23年9月13日（火））
資料5 平成23年度外部資金の受入れについて（平成23年9月1日現在）
資料6 創立20周年記念式典実施要領
参考資料 奈良先端大の概要と特色
参考資料 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学平成23年度経営協議会委員一覧
参考資料 第2次大学院教育振興施策要綱（概要）

議事に先立ち、委員の自己紹介が行われた。

5. 議 事

（前回議事要旨の確認）

資料1の前回（平成23年度第1回）の議事要旨（案）について、原案どおり承認された。

（審議事項）

（1）国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学財務貢献者報奨規程の制定について

澤田委員から、資料2－1～2に基づき、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学

財務貢献者報奨規程の制定について説明が行われ、審議の結果、外部資金の定義を補足した上で、原案が承認された。なお、今後は、教育研究評議会及び役員会への附議を経て、当該規程を制定することが確認された。

(主な意見は、次のとおり)

- ・国立大学が運営費交付金だけによって研究を行う時代は終わりつつあるように感じている。研究者1人1人が外部と繋がり、自ら資金を獲得し、自身の責任と裁量のもとで成果を創出することが求められるだろう。
- ・外部資金の獲得による研究者評価制度の創設など、自然科学分野だけで構成されている奈良先端大の特長を最大限に活かし、大学を活性化させていくことが必要である。
- ・産学連携の観点からすれば、外部資金を獲得することによって企業との連携が深化することになり、社会貢献に繋がる。
- ・財務貢献への報奨だけでなく、教育研究の中身や質について顕彰し、その栄誉を称える仕組みについて、今後検討してはどうか。

(2) 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学基金規程の制定等について

澤田委員から、資料3-1～3に基づき、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学基金規程の制定等について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。なお、今後は、教育研究評議会及び役員会への附議を経て、関係規程の制定等を行うことが確認された。

(主な意見は、次のとおり)

- ・一度に高額を寄附された方への謝意表明だけでなく、継続的に寄附金を集めるため、寄附の累積額に応じて寄附者に謝意を表明する場合についても検討してはどうか。
- ・寄附者に謝意を表明する際に併せて、その寄附がどういった事業に活用されたのかという説明や報告を行うことは重要である。
- ・世界トップレベルの教育研究拠点の形成を基金の主たる目的として掲げていることから、例えば、成績優秀学生に対する支援を検討してはどうか。優秀な学生を確保するインセンティブになるだろう。
- ・優秀な学生を表彰する大学だということを、大学文化の中に位置付けることは、優秀な留学生の確保に向けて大変有効である。
- ・継続的な寄附による基金は、設立後2年目以降に漸減する傾向がある。ぜひ、漸増するような方策を考えていただきたい。

(報告事項)

(1) 本学の主な動きについて(平成23年6月24日～平成23年9月13日)

議長から、資料4に基づき、平成23年6月24日から平成23年9月13日に行われた本学の活動状況等について、報告が行われた。

(2) 平成23年度外部資金の受入れについて

新名委員から、資料5に基づき、平成23年度外部資金の受入れ状況について、報告

が行われた。

(その他)

(1) 創立20周年記念式典について

新名委員から、資料6に基づき、平成23年10月1日開催の創立20周年記念式典、記念講演会及びレセプションの概要と招待者等の参加状況について、説明が行われた。

(意見交換・情報交換)

第2次大学院教育振興施策要綱の概要等を参考に、大学院教育を中心に大学を取り巻く状況について、意見交換及び情報交換が行われた。

(主な意見は、次のとおり)

- ・分野を越えた人材や異なる分野の接点となるような人材が、これからさらに重要になってくることを踏まえ、カリキュラムの構築や教育内容・教育方法の工夫を行うことが必要ではないだろうか。
- ・修了した留学生に対して積極的にアフターケアを行うことは、今後、国際交流を発展させていく上で非常に大切なことだ。
- ・アメリカにおける Qualifying Examination というものは、経験から言うと、知識だけでなく見識を問われる。学問自体がグローバルに発展していくことを踏まえ、視野を広く持って対応していくべきである。
- ・情報通信分野の発展による新たな学習方法を大学院教育において活用した場合の影響について検証できれば良いと思っている。
- ・新しい社会を想像する中で、奈良先端大のように科学技術に限定して教育を実施している大学において、哲学のような人文科学分野を学ぶことに取り組むことは、学生が国際社会に向けて視野を広げることに繋がるのではないだろうか。
- ・啓蒙・啓発型のNPOが多い日本において、今後、科学技術の推進に関する市民団体を創設することは、日本にとって大きな意味を持つだろう。
- ・例えば、特に留学生に対して、日本の企業の現場の方が最先端の科学技術について講義することは、留学生のキャリアサポートに繋がるとともに、日本の企業のためにもなるのではないか。
- ・独自性・先端性を持つ日本の科学技術教育をグローバルスタンダードにするため、その基準作りに参画することは考えられないだろうか。

以 上